

地方独立行政法人筑後市立病院経営強化プランに係る実績報告書

計画期間：2023（令和5）年度～2026（令和8）年度

2025年6月

地方独立行政法人

筑後市立病院

1. 項目別の実績値

経営強化プランに掲げる数値目標のうち、業務実績報告書（中期計画）に記載のない事項について、下記のとおり実績を報告いたします。
業務実績報告書と重複する事項については、省略しています。

Ⅱ 役割・機能の最適化と連携の強化		4. 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標	
項目		目標値（2026 年度）	実績値（2024 年度）
連携の強化等に係るもの	公立八女総合病院との連携事例数	2事例以上	0 事例
主な取組内容と自己評価			
・ 公立八女総合病院とより一層の連携強化を図るため「八女・筑後公立病院連携強化協議会」を 2024 年度に設置し、2 回の会議を開催した。当院と公立八女総合病院の双方で現状を把握し、連携事例について意見交換及び検討協議を行ったものの、具体的な連携事例策定には至らなかった。 【関連項目】 中期計画：第 1 - 1 -(3) 診療機能の整備			

Ⅱ 役割・機能の最適化と連携の強化		4. 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標	
項目		目標値（2026 年度）	実績値（2024 年度）
その他	初期臨床研修医数（年度当初）	2名以上	2 名
主な取組内容と自己評価			
・ 求人募集サイトへの有料掲載を行い、応募の増加を図った。 ・ 魅力的な初期臨床研修とするため、久留米大学関連病院と連携して研修診療科（研修プログラムの選択肢）の充実を図った。 ・ 総合診療科専攻医を 2023 年 4 月より 1 名受け入れ、周辺の専門研修施設群と連携した研修プログラムを実施している。 【関連項目】 中期計画：第 2 - 1 -(1)医療スタッフの確保			

VI 経営の効率化等		1. 経営指標に係る数値目標	
項目		目標値（2026 年度）	実績値（2024 年度）
収入確保に係るもの	患者1 人1日当たり入院収益	55,600円以上	47,683 円
主な取組内容と自己評価			
- 診療報酬改定の年であったので、院内でワーキング等を通じた周知活動を実施し、入院ベースアップ評価料等の施設基準を取得した。 - 在院日数が長期化していたため、シミュレーションを実施して在院日数の短縮を図り、効率化指数の向上と新規入院患者の増加を目指したが、冬場に感染症が流行したことで患者の移動が停滞し、退院・転院が計画どおり進まなかった。 - 経営効率化を目的として、233 床の病床を 2025 年 4 月から 34 床減床し 199 床とする方針について、院内および院外で合意を得た上で、関連手続きを計画どおり実施した。 【関連項目】 中期計画：第 3 - 1 -(1) 収益の確保と費用の節減			

VI 経営の効率化等		1. 経営指標に係る数値目標	
項目		目標値（2026 年度）	実績値（2024 年度）
収入確保に係るもの	患者1 人1日当たり外来収益	15,100円以上	15,779 円
主な取組内容と自己評価			
2025 年 4 月から 200 床未満の算定になることにより、算定内容が変更となり増収が見込まれたため、医局や関連部署に向けて周知活動を行った。 - 一次査定率の目標を 0.3%以内に設定していたが、実績は 0.22%となり目標を達成した。 【関連項目】 中期計画：第 3 - 1 -(1) 収益の確保と費用の節減			

VI 経営の効率化等		1. 経営指標に係る数値目標	
項目		目標値（2026 年度）	実績値（2024 年度）
経費削減に係るもの	材料費対修正医業収益比率	20.0%以下	19.6%
主な取組内容と自己評価			
・ 医薬品について、妥結単価の値引率の平均は、全国自治体病院協議会の全国平均値を 0.33% 上回ることができた。引き続き、医薬品在庫管理システムを導入し、温度管理が必要な高額医薬品の品質や在庫、発注の適正化に努めた。 ・ 診療材料について、診療材料検討委員会で費用対効果の検証と同効同種への切り替え可否の検討を行ったものの、原材料価格上昇や輸送費コスト増加の影響を受け、診療材料費は、昨年度より約 400 万円増加となった。 【関連項目】 中期計画：第 3 - 1 -(1) 収益の確保と費用の節減			

VI 経営の効率化等		1. 経営指標に係る数値目標	
項目		目標値（2026 年度）	実績値（2024 年度）
経費削減に係るもの	経費対修正医業収益比率	17.0%以下	22.3%
主な取組内容と自己評価			
・ 仕様内容や一部契約の見直しにより、費用節減に努めた。 ・ 照明器具等の更新について、継続して内製化することによりコストを抑えた。 ・ ボイラの運用変更や空調機洗浄による運転効率化により、省エネに努めた。 ・ 特に委託費について、人件費上昇や運用コスト増加の影響を受け、目標値に達することはできなかった。 【関連項目】 中期計画：第 3 - 1 -(1) 収益の確保と費用の節減			

VI 経営の効率化等		1. 経営指標に係る数値目標	
項目		目標値（2026 年度）	実績値（2024 年度）
経営の安定性に係るもの	常勤医師数	30人以上	29 人（年度当初）
主な取組内容と自己評価			
・ 医師の宿日直当番業務の軽減を図るため、休日日勤に管理職医師も従事できるよう制度整備を行った。 ・ 働き方改革 A 水準（時間外 960 時間/年未満）を維持するため、毎月の時間外業務等を監視及び業務量調整を行った。 ・ 理事長を中心に、久留米大学医局及びその他医療機関に訪問するなど、常勤医及び出張医の派遣要請活動を行った。 【関連項目】中期計画：第 2 - 1 -(1)医療スタッフの確保			

2. 総括

経営強化プランに係る実績については、「1. 項目別の実績値」のほか、業務実績報告書（中期計画）に記載のとおりです。これらを踏まえた全体総括は下記のとおりです。

- ・ 地域の中核病院である公的医療機関として、近隣医療機関との連携を深めながら、住民の命と暮らしを支える役割を果たすべく、全職員が一丸となって業務に取り組んだ。しかしながら 2024 年の決算は、経常収支比率は 93.1%となり前年度比で+1.5 ポイント改善したが、純損失は約 3 億 1755 万円（前年度比▲4750 万円）の赤字となり、2 年連続の赤字計上となった。収支改善には、病床利用率の上昇が喫緊の課題であり、持続可能な医療提供体制を確保のため、経営基盤の安定化に向けて取り組んでいく。